

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5362454号  
(P5362454)

(45) 発行日 平成25年12月11日(2013.12.11)

(24) 登録日 平成25年9月13日(2013.9.13)

(51) Int.Cl. F I  
**AO1G 1/06 (2006.01)** AO1G 1/06 Z  
**AO1G 1/00 (2006.01)** AO1G 1/00 3O1Z

請求項の数 2 (全 5 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2009-145233 (P2009-145233)                  (22) 出願日 平成21年6月18日 (2009.6.18)                  (65) 公開番号 特開2011-43 (P2011-43A)                  (43) 公開日 平成23年1月6日 (2011.1.6)                  審査請求日 平成24年1月16日 (2012.1.16)</p>	<p>(73) 特許権者 509173111                  有限会社花プラン                  新潟県新発田市五十公野2185番地                  (74) 代理人 100084102                  弁理士 近藤 彰                  (72) 発明者 富樫 康雄                  新潟県新発田市五十公野2185番地 有                  限会社花プラン内                   審査官 坂田 誠</p>
--	---

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バラ苗の生産方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

栽培目的種の葉柄の根元部分の芽の周りを、葉を残したまま切り取って接ぎ体とし、台木となるノイバラの茎に葉を残し、前記台木の葉のやや下方に、前記接ぎ体を常法手段で接ぎ芽を行い、台木を適宜な苗床に挿し木を行い、挿し木の根の活着の後に、台木の葉及びその根元にある芽を切除し、所定期間接ぎ体の新芽を発育させてなることを特徴とするバラ苗の生産方法。

【請求項2】

栽培当初は、水滴の噴霧で栽培を行うミスト栽培を採用すると共に、当初の2週間は、日中は数分間隔で10～30秒程度、夜間は3時間程度の間隔で20秒前後の噴霧を行い、3週目から徐々に噴霧回数を減らし、長くとも4週間でミスト栽培を終了してなる請求項1記載のバラ苗の生産方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、切り花栽培農家に提供するバラ苗の生産方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

植物の増殖手段として、一般に挿し木、接ぎ木、接ぎ芽が知られており、種々の品種が存在しているバラにおいても同様で、一般的な園芸好事家は、手間暇をかけて増殖を行っ

ている。しかしバラ苗を切り花栽培農家に提供する業者にとっては、煩雑な作業を極力少なくし、且つ生産効率を高める必要がある。

【0003】

バラ苗の生産方法としては、特許文献1（特開平7-213152号公報）の図1に、接木床（苗床）に植えた台木に接ぎ穂（接ぎ木）又は接ぎ芽で行うことが示されている。

【0004】

また前記手段においては、台木が相応に生育して根を張った状態で接ぎ穂（接ぎ木）又は接ぎ芽を行うために、台木（ノイバラ）の生産を1年先行する必要があるとして、特許文献2（特開2000-245261号公報）に、バラの挿し木に対して効果のある発酵促進剤を使用しての挿し木増殖が提案されている。

10

【0005】

然し切り花栽培農家に提供するバラ苗の生産においては、特許文献1に開示されている接木床（苗床）に植栽された台木の使用は作業性が悪く、特許文献2に示されている直接の挿し木増殖は、活着率に問題が生産性に劣るといふ問題がある。このため現状においては、挿し木による生育が充分に見込める台木自体に、接ぎ木を行い、台木を挿し木（以下「接ぎ木・挿し木」という）としてバラ苗を生産している。

【0006】

具体的に説明すると、接ぎ木・挿し木は、図2に示すように、ノイバラの台木01に、栽培品種のバラ枝02を接ぎ木して、ロックウールの苗床03に挿し木を行って栽培し、台木01に根が活着し、バラ枝02の新芽04が生育した段階で出荷している。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【特許文献1】特開平7-213152号公報。

【特許文献2】特開2000-245261号公報。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

現在の切り花栽培農家に提供するバラ苗の生産手段は、前記の図2に示した通りで、あるが、図2で示した接ぎ木・挿し木は約50日の栽培（ミスト栽培）で、十分に活着して出荷可能となる割合（活着率）は約70%程度ある。

30

【0009】

そこで本発明は、出荷率（活着率）を高めて生産効率を上げる新規なバラ苗の生産方法を提案したものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明に係るバラの苗の生産方法は、栽培目的種の葉柄の根元部分の芽の周りを、葉を残したまま切り取って接ぎ体とし、台木となるノイバラの茎に葉を残し、前記台木の葉のやや下方に、前記接ぎ体を常法手段で接ぎ芽を行い、台木を適宜な苗床に挿し木を行い、挿し木の根の活着の後に、台木の葉及びその根元にある芽を切除し、所定期間接ぎ体の新新芽を発育させてなることを特徴とするものである。

40

【0011】

従って台木となるノイバラは樹勢力（繁殖性、耐病性、耐寒性、耐暑性）が強く、挿し木に際しては、自己の葉の存在によって、図2の従前の接ぎ木・挿し木に比較して根の活着が良好であり、また接ぎ体と台木部分の接ぎ個所が、接ぎ体の葉の存在によって細胞結合が速やかに行われ、根の活着後には、台木の葉が切除されるので、苗の成長は接ぎ体の芽に集中することになり、栽培日数は50日程度で、且つ活着率は略90～100%となる。

【発明の効果】

50

## 【 0 0 1 2 】

本発明は上記のとおり、ノイバラの台木の挿し木を使用したバラ苗の生産において、特に台木に葉を残し、且つ葉を残した接ぎ芽を行うことで、従前のバラ苗生産に比較して、活着率を高め生産性を著しく向上させたものである。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 1 3 】

【 図 1 】 本発明の生産過程の説明図。

【 図 2 】 従来が生産形態の説明図。

## 【 発明を実施するための形態 】

## 【 0 0 1 4 】

次に本発明の実施形態を、生産手順に添って説明する。使用する部材は、台木 1 と、栽培目的品種の接ぎ体 2 と、苗床 3 である。

## 【 0 0 1 5 】

台木 1 は、樹勢力の強いノイバラの茎で、少なくとも一枝の葉 1 1 を残したままのものとす。接ぎ体 2 は、栽培目的の品種から採取するもので、葉柄の根元部分の芽 2 1 の周りを切り取るもので、葉 2 2 は、必要に応じて数葉を適宜な大きさにして残しておく。また苗床 3 は、ロックウールのブロック体やピートモス、砂、パーライト等を採用するものである。

## 【 0 0 1 6 】

而して前記の台木 1 に接ぎ体 2 を接ぐもので、接ぎ手段は、台木 1 における葉 1 1 の下方の側面に上方から切り込み 1 2 又は下方からの切り込み 1 3 を形成し、当該切り込み 1 2 , 1 3 に接ぎ体 2 の根元部分を差し込むものである。或いは台木 1 の側面の一部を抉り取り、当該抉り個所 1 4 に接ぎ体 2 の根元を当接して、テープ 4 でしっかりと固定するものである。勿論前記の差し込みにおいてもテープ 4 で固定しても良い。

## 【 0 0 1 7 】

台木 1 に接ぎ体 2 の接ぎ芽を施した後は、台木 1 を苗床 3 に挿し木を行い、所定期間ミスト栽培を行うものである。

## 【 0 0 1 8 】

ミスト栽培は、当初の 2 週間は、日中は数分間隔で 1 0 ~ 3 0 秒程度（例えば 5 分間隔で 2 0 秒の噴霧）、夜間は 3 時間程度の間隔で 2 0 秒前後の噴霧を行い、3 週目から徐々に噴霧回数を減らし、長くとも 4 週間でミスト栽培を終了し、その後は通常の苗栽培を行う。

## 【 0 0 1 9 】

前記の栽培の途中において、挿し木（台木 1）の根の活着がなされた後（挿し木から 2 0 ~ 4 0 日後）の後に、台木 1 の葉 1 1 及びその根元にある芽を切除し、約 5 0 日に出荷するものである。

## 【 0 0 2 0 】

特に本発明は、樹勢力の強い台木 1 が、挿し木当初に葉 1 1 を備えることによって、台木 1 の根の活着が良好であり、また接ぎ体 2 が葉 2 2 を備えているので、葉 2 2 への給水への必要性から台木 1 部分との接ぎ個所の細胞結合が速やかになされ、更に根の活着後には、台木 1 の葉 1 1 が切除されるので、苗の成長は接ぎ体の芽 2 1 に集中することになり、出荷までの栽培日数が 5 0 日程度で、活着率は約 9 0 ~ 1 0 0 % となるものである。

## 【 符号の説明 】

## 【 0 0 2 1 】

1 台木

1 1 葉

1 2 ・ 1 3 切り込み

1 4 抉り個所

2 接ぎ体

2 1 芽

10

20

30

40

50



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開昭54-15837(JP,A)  
特開2002-262665(JP,A)  
特開昭52-61538(JP,A)  
特開平11-69912(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A01G 1/06  
A01G 1/00